

ダンス経験のない教員がダンスを教えるために -指導不安の定量化-

Teachers Should Teach Dance Though Inexperienced: Quantification of the Teaching Anxiety

山口 莉奈¹, 正田 悠², 鈴木 紀子³, 阪田 真己子¹
Rina Yamaguchi, Haruka Shoda, Noriko Suzuki, Mamiko Sakata

¹同志社大学大学院文化情報学研究科

²立命館大学立命館グローバル・イノベーション研究機構

³帝塚山大学経営学部

¹Graduation School of Culture and Information Science, Doshisha University

²Ritsumeikan Global Innovation Research Organization, Ritsumeikan University

³Faculty of Business Administration, Tezukayama University

dip0010@mail4.doshisha.ac.jp

Abstract

The purpose of the present study is to confirm the replicability of five components of the teaching anxiety found in our previous study (Yamaguchi et al, 2015) as well as to explore how the teacher's degree of such the anxiety differs according to his/her attributes. We focused on "dance teaching anxiety," which we defined as the teacher's concerns regarding physical education curricula. We conducted a questionnaire survey for teachers ($N = 202$) who participated in a training seminar by Nippon Street Dance Studio Association. We conducted exploratory factor analysis, extracting four factors as for the teaching anxiety: anxieties for lack of knowledge, students, their own dance skills, and student interest. Decision tree analyses showed that the teacher's degree of such the anxiety differed as a function of his/her attributes such as sex, age, previous dance experience, and previous dance teaching experience.

Keywords — Teaching anxiety, compulsory education, exploratory factor analysis, decision tree

1. はじめに

平成20年3月に告示された中学校学習指導要領の改訂に伴い、中学校保健体育においては、従前では選択単元であった「ダンス」が必修化された[1]。筆者らは、このダンスの必修化に伴って教員にいかなる不安が生じているのかを定量化し、その不安の原因を明らかにすることを目指している。

ダンスに限らず、学習指導要領の改訂に伴って現職教員には不安や混乱が生じる[2-5]。例えば、高等学校学習指導要領改訂に伴い男女共習となった家庭科では、男女の能力や技術の差、指導方法に不安を抱いた教員が多いことが報告されている[3]。平成20年にダンス同様必修化となった武道では、授業実施に伴う生徒の安全の確保や用具教材の整備に対して多くの教員が不安を抱いていると報告されている[4]。ダンスについても、必修化に伴い多くの教員が指導力不足への不安を抱い

ている[2, 5]。学習指導要領の改訂による授業形態や指導法の変化に対して、教員になんらかの不安が生じるのは避けられないといえる。

また、こうした不安には、学習指導要領の改訂に伴って教員が共通してもつ一般的な指導不安と、ダンスに特有の指導不安があると考えられる。たとえばダンス単元では、生徒の興味・関心が個人によって大きく異なることや、教員自身が見本を見せて指導を行わなければならない点がほかの科目と異なる。特に、平成20年に必修化となったため、ダンス経験やダンス指導経験、あるいはその研修を受けたことのない体育教師が未だ一定数いる。そうした中で、これまで自身が経験したことがない、あるいは教えたことのないことを教えなければならないという不安はダンス指導に特有のものであると考えられる。

こうした背景のもと、筆者らはダンス指導において生じる課題や困難点を「ダンス指導不安」と定義し、新学習指導要領施行から5年以上経過した現在もなお教員が抱いている不安の実態を解明するとともに、その不安の原因がいかなるものなのかを調べてきた。山口・正田・鈴木・阪田(2015)[5]では日本ストリートダンススタジオ協会主催の学校教員・教職課程履修中の大学生向けリズムダンス研修会(以下:「NSSA 主催リズムダンス研修会」)に参加した現職教員を対象に質問紙調査を実施し、得られた自由記述に対してテキストマイニングを実施した。共起ネットワークによって相対的に強く結びついている単語同士を検出してグループ分けを行ったところ、教員がダンス指導の際に抱くダンス指導不安が5つの不安から構成されることが示された。抽出された5つのダンス指導不安は「知識不足に対する不安」、「経験不足に対する不安」、「授

業構成に対する不安」, 「生徒に対する不安」, 「指導法に対する不安」であった。こうして5つの不安要素を抽出することができた一方で, これらの要素は自由記述から抽出されたものであるため, 教員の中にあるダンス指導不安が全て反映されているわけではなく, アンケート回答時点で教員が最も不安に感じている事柄のみを言及している可能性がある。そこで, 本研究ではこれら5つの不安要素から計49の質問項目を作成し, これら5つのダンス指導不安が再現されるかを調査した。また, それぞれの要素が教員のどのような属性(性別・年齢・ダンス指導経験の有無)から生じているのかを明らかにする。

現実の教育場面での学習過程を直接の分析対象とする「学習科学」は, 学習者の知識・技能習得過程を解明し, よりよい学習環境をいかにして構築するか, という問題に主眼がおかれてきた[6]。本研究では, 「体育教員の多くが, ダンス経験がないにもかかわらず, ダンス指導を行っている」[7]という指導者側が抱える問題に取り組む。また実践的には, 教員自らが抱えている不安の原因を明らかにすることで梅澤(1996)[8]によって指摘されている教員自らが授業の問題点を的確に診断することができないような状況を打破することができる。さらに, 教員自らの手でダンス指導授業の問題点を的確に捉え, 振り返り, さらに省察するためのノウハウを提案することが可能になると考えられる。このように, 本研究は「自らが十分に熟達していないことがらを教授する」という問題への一アプローチであり, 学習環境のデザイン研究への貢献が期待される。

2. 方法

2015年5月から11月に福井県・神奈川県・千葉県・静岡県の4県で実施された「NSSA 主催リズムダンス研修会」の参加者202名に対し, 研修会終了後に質問紙調査を依頼した。研修会1回あたりの参加者数は, 20~54人であり, 参加者は全員現職教員であった。質問紙は山口他(2015)[5]において認められた5つの不安要素のそれぞれについて8~10項目の質問項目を作成し(合計49項目), ダンス指導不安尺度の原案として使用した。質問紙の回答方法は, 各質問項目に対して「1:全く不安に感じない」から「7:とても不安に感じる」までの単極7段階評価とした。それに加え, 性別, 年齢, ダンス経験の有無, ダンス指導経験の有無の付帯質問にも回答してもらった。全質問項目において, 無回答のものが一つでもあれば分析対象から除外した。

回収した202名のうち有効回答は136名(67.33%)

であった。136名のうち男性は87名, 女性は49名で平均年齢は31.45($SD = 8.22$)歳, 平均教員歴は7.26($SD = 7.52$)年であった。

3. 結果

探索的因子分析を行う前に, 項目分析およびGP分析を行った。項目分析では偏りのある項目(どちらかの極に全体の80%以上が集中するもの)に該当するものはなかった。また, GP分析でも上位群と下位群に差がない項目はなかった。よって, 作成した49項目すべてを分析対象とした。

探索的因子分析によって, 教員のダンス指導不安の背景にある4因子を抽出した(ミンレス法, 独立クラスター回転による。表1)。因子数は平行分析によって決定した。第1因子では, Q3「ステップの名前やその由来に関する知識」や, Q5「現代的なリズムダンスの歴史やリズムダンス導入の背景に関する知識」というような教員自身の知識に関する項目の因子負荷量が高かった。第2因子ではQ37「生徒がお互いの発表を鑑賞すること」や, Q34「生徒が協調性を大切にしながら創作活動を行うこと」という生徒に関する項目の因子負荷量が高く, 第3因子ではQ13「自分自身が見本になること」や, Q9「自分自身がダンスを楽しむこと」というような教員自身のダンス能力に関する項目の因子負荷量が高かった。さらに, 第4因子ではQ31「生徒のニーズに合った振り付けを考えること」や, Q29「生徒のレベルに合った振り付けを考えること」というような生徒のレベルやニーズに関する項目の因子負荷量が高かった。

以上の各因子に影響を与えた要因を探索するため, 決定木分析を行った(図1)。その際, 探索的因子分析より抽出された各因子(表1)から回帰法で算出した因子得点を目的変数, 性別, 教員歴, ダンス経験の有無, またダンス指導経験の有無を説明変数とした。その結果, 第1因子, 第3因子, 第4因子の因子得点はダンス経験の有無に, また, 第2因子の因子得点は, ダンス指導経験の有無の影響を受けることが示された。

4. 考察

本研究では, 筆者らの先行研究(山口他, 2015)[5]の自由記述に基づき作成された評定尺度への回答を分析することにより, 同様のダンス指導不安が再現されるのか, またそのようなダンス指導不安が教員のどのような属性から生じているのかを明らかにすることを目的とした。その結果, ダンス指導不安は大きく4因子からなること, また, それらはダンス経験の有無と

ダンス指導経験の有無の影響を受けることがわかった。

本研究で抽出した4因子において、教員自身の知識に対する不安(第1因子)は、山口他(2015)[5]で抽出したダンス指導不安要素のうち、「知識不足に対する不安」と対応するものである。同様に、生徒に対する不安(第2因子)と生徒のレベルやニーズに対する不安(第4因子)は「生徒に対する不安」に対応していると考えられる。しかし、教員自身のダンス能力に対する不安(第3因子)は山口他(2015)[5]で抽出されたものとは異なる不安要素である。筆者らの先行研究[5]では、教員のダンス能力に対する不安は独立したものとしては抽出されておらず、「経験不足に対する不安」の一要素であった。これらの結果をふまえると、教員自身のダンス能力に関する不安は、本研究で新たに生じたものではなく、自由記述では現れなかっただけで教員自身が実際には抱いていた不安である可能性が高い。

また、決定木分析の結果より、教員由来の不安は、教員自身のダンス経験に起因し(図1a, c, d)、生徒由来の不安はダンス指導経験に起因する(図1b)ことが示された。教員自身の知識不足に対する不安(第1因子)というのは、指導法に対する知識によるものではなく、ほとんどがダンスそのものの知識に対するもの(e.g., ステップの名前)であった。そのため、第1因子(教員自身の知識に対する不安)はダンス指導経験ではなく、ダンス経験に起因したのだと考えられる。

同様に、教員自身のダンス能力に対する不安(第3因子)はQ13「自分自身が見本になること」やQ15「自分自身が格好よく踊ること」というような項目であり、本研究の結果は、ダンス経験のない教員がこうした不安を抱いていることを示している。裏返せば、教員自身は生徒に対して自身が一人で踊り見本を示す必要性を感じており、それを自信をもってできないことに一種のぎこちなさややるせなさを感じていることを示している。

さらに、生徒のレベルやニーズに対する不安(第4因子)はQ31「生徒のニーズに合った振り付けを考えること」やQ32「生徒のレベルに合った創作活動の指導」という質問項目が含まれている。ダンスは近年、子どもが習い事として始めたいスポーツランキングの上位に入っており[9]、体育の中の一つ目としてのダンスであっても生徒は「格好よく踊れるようになりたい」などといった高いレベルを求めていると考えられる。しかし、多くの現職教員が学生時代にダンスの授業を

受講した経験がないのが現状であり、ダンス経験のない教員が生徒の求めている高いレベルやニーズに応えるのは難しいと考えられる。

その一方で、生徒に対する不安(第2因子)はQ38「生徒がダンスを楽しむこと」やQ48「経験者と初心者と同時に指導すること」というような質問項目である。生徒由来の不安というのは、担当する生徒によって違うため毎年変化するものであるが、長年の経験から得られた知識によって解決することができる部分も大きいと考えられる。ゆえに、第4因子はダンス指導経験を通してレベルの違う生徒を指導することや生徒がダンスを楽しむ方法を把握することができるため、ダンス指導経験の有無が起因していると考えられる。

前述した通り、ダンス指導不安の多くは生徒由来の不安ではなく、教員由来の不安である。しかし、全ての不安がダンス経験がないことに起因するものではないことがわかった。自らが十分に熟達していないことがらを教授するためには、練習を重ね熟達者と同様の技術を兼ね備えていなければならないわけではない。したがって、教員のダンス指導不安を取り除くためには、教員自身のダンス経験、技能を向上させるだけでなく、ダンス指導経験を積むことも必要である。

今後も継続的に現職教員が抱えているダンス指導不安の実態や原因を解明することを目指す。本研究での調査は、NSSA主催リズムダンス研修会に参加していた現職教員を対象にしているため中学校の一般的な現職体育教員の現状を反映できていないと考えられる。そのため、今後は調査対象を拡大し、より一般化することが重要である。

参考文献

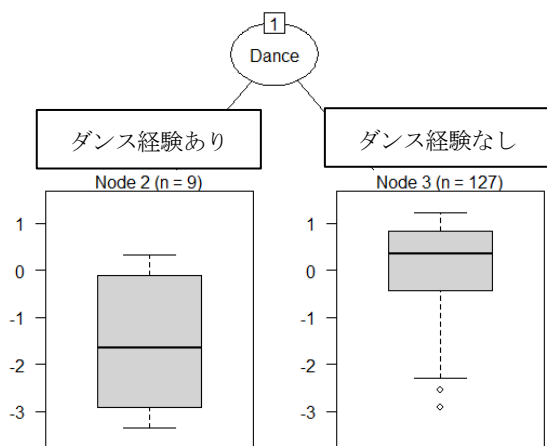
- [1] 文部科学省, (2008) “中学校学習指導要領解説保険体育編”, pp. 7-11.
- [2] 中村 恭子, (2009) “中学校ダンス必修化の課題-中学校教員を対象とした調査に基づいて-”, 順天堂大学スポーツ健康科学研究, Vol. 1, No. 1, pp. 27-39.
- [3] 浜島 京子, 武藤 八恵子, (1997) “新指導要領実施後における高等学校家庭科教員の意識の変化”, 日本家庭科教育学会誌, Vol. 40, No. 3, pp. 41-48.
- [4] 鹿屋体育大学生涯スポーツ実践センター, (2010) “中学校における武道必修化に関するアンケート調査報告書”.
- [5] 山口 莉奈, 正田 悠, 鈴木 紀子, 阪田 真己子, (2015) “ダンス必修化に伴う教員の不安構造の分析”, 日本認知科学会第32回大会, pp. 309-312.
- [6] 三宅 なほみ, 三宅 芳雄, 白水 始, (2002) “学習科学と認知科学”, 認知科学会, Vol. 9, No. 3, pp. 328-337.
- [7] 山口 莉奈, 正田 悠, 鈴木 紀子, 阪田 真己子, (2016) “ダンス必修化に伴う教員の指導不安の定量的分析”,

情報処理学会第78回全国大会, pp. 4-913-4-914.

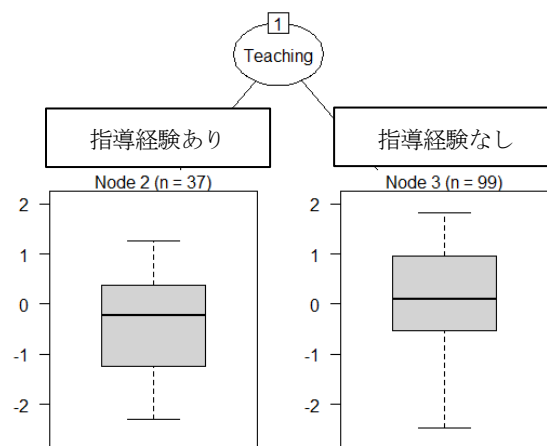
- [8] 梅沢 実, (1996) “模擬授業を中心とした教育実習事前指導における学習者・授業理解”, 教育実習研究指導センター研究紀要, Vol. 20, pp. 89-104.
- [9] スポーツランキング plus+, (2015) “中学生の子供が習い事として始めたいスポーツランキングベスト 6!”, <http://sports-ranking.net/archives/290.html>, 2016年7月13日参照.

表 1 因子パターン行列

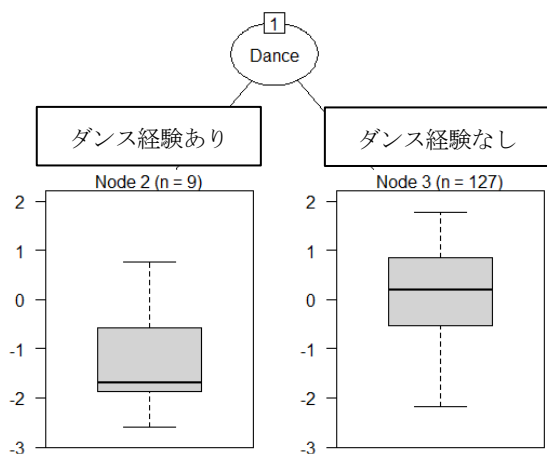
質問項目	第1因子	第2因子	第3因子	第4因子
Q3 ステップの名前やその由来に関する知識	0.97	-0.07	0.01	-0.15
Q5 現代的なリズムダンスの歴史やリズムダンス導入の背景に関する知識	0.89	0.19	-0.24	-0.03
Q4 現代的なリズムダンスとその他のダンス(創作ダンスやフォークダンスなど)の違いに関する知識	0.87	0.21	-0.10	-0.25
Q6 ステップの動き方に関する知識	0.87	0.01	0.10	-0.06
Q8 格好よく見えるステップに関する知識	0.86	-0.04	0.17	-0.05
Q7 ステップの組み合わせ方	0.79	-0.04	0.11	0.10
Q11 自分自身のダンスのスキル	0.58	-0.14	0.49	-0.05
Q14 自分自身の指導スキル	0.58	0.03	0.41	-0.08
Q19 自分自身のダンス経験	0.50	0.15	0.30	-0.11
Q22 短時間で既成教材の習得と創作活動の両方を行うこと	0.44	0.23	0.00	0.22
Q21 創作活動(生徒自らが習得してステップをもとに創作を行う学習)の評価の基準	0.39	0.37	-0.13	0.18
Q38 生徒がダンスを楽しむこと	-0.16	1.00	0.13	-0.26
Q37 生徒がお互いの発表を鑑賞すること	0.02	0.94	-0.02	-0.31
Q34 生徒が協調性を大切にしながら創作活動を行うこと	0.09	0.91	-0.15	-0.06
Q36 生徒が恥ずかしがらずに踊ること	0.08	0.88	-0.10	-0.16
Q39 生徒が授業で習得したステップを用いて創作活動を行うこと	0.00	0.85	0.01	-0.02
Q35 生徒が自分らしさを表現すること	0.09	0.82	-0.29	0.05
Q25 経験のある生徒主体の授業にしてしまうこと	-0.02	0.78	-0.11	-0.03
Q27 テストの内容	0.23	0.68	-0.11	-0.01
Q47 自分自身が恥ずかしがらずに生徒を指導すること	-0.27	0.68	0.36	-0.13
Q44 生徒のモチベーションの上げ方	-0.14	0.67	0.24	0.16
Q48 経験者と初心者を同時に指導すること	0.04	0.64	0.09	0.12
Q17 経験者の生徒から指摘を受けること	-0.16	0.64	0.20	-0.15
Q45 リズムにのりきれない生徒への指導	-0.08	0.60	0.25	0.16
Q24 導入での生徒のひきこみ方	0.16	0.54	0.13	0.07
Q41 創作活動においてオリジナリティのある振り付けを引き出す言葉がけ	0.15	0.54	0.11	0.13
Q49 経験者と初心者それぞれに応じたアドバイス	0.09	0.54	0.15	0.21
Q26 経験のない生徒主体の授業にしてしまうこと	0.00	0.54	0.02	0.28
Q40 口だけの指導になること	-0.03	0.53	0.36	0.01
Q28 集団指導の方法	0.14	0.52	-0.15	0.29
Q46 生徒に上手く伝える説明	0.13	0.50	0.05	0.30
Q43 経験者に対する興味のひかせ方	-0.01	0.49	0.19	0.28
Q23 カリキュラムの組み方	0.37	0.48	-0.22	0.22
Q42 ダンスの楽しさを教えること	-0.01	0.48	0.44	0.04
Q33 生徒に基本的なステップを習得させること	0.15	0.47	0.18	0.13
Q20 既成教材(全員が同じ振り付けを習得する学習)の評価の基準	0.22	0.43	0.15	-0.02
Q13 自分自身が見本になること	0.12	-0.02	0.80	0.07
Q9 自分自身がダンスを楽しむこと	-0.14	0.12	0.77	0.03
Q10 自分自身がリズムをとること	0.06	-0.02	0.76	0.08
Q12 自分自身が振り付けを覚えること	0.20	-0.06	0.74	-0.06
Q15 自分自身が格好よく踊ること	0.37	-0.05	0.62	0.01
Q16 自分自身の体の使い方	0.32	0.08	0.60	-0.01
Q18 自分自身がダンスの授業を行う体力	-0.38	0.44	0.45	-0.08
Q2 ダンスが苦手な生徒に対するアドバイス	0.38	0.16	0.44	-0.13
Q1 選曲の仕方	0.23	0.13	0.29	0.15
Q31 生徒のニーズに合った振り付けを考えること	-0.10	0.13	0.05	0.88
Q29 生徒のレベルに合った振り付けを考えること	0.03	0.07	0.11	0.76
Q32 生徒のレベルに合った創作活動の指導	0.00	0.39	-0.19	0.70
Q30 生徒のニーズに合った選曲	-0.16	0.28	0.10	0.60



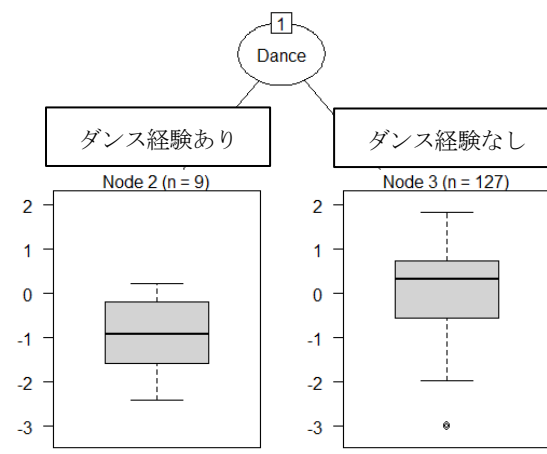
(a) 教員自身の知識に対する不安 (第1因子)



(b) 生徒に対する不安 (第2因子)



(c) 教員自身のダンス能力に関する不安 (第3因子)



(d) 生徒のレベルやニーズに対する不安 (第4因子)

図1 教員がダンス指導に際して抱く不安から抽出された各因子(表1)の因子得点を目的変数、性別、教員歴、ダンス経験の有無、ダンス指導経験の有無を説明変数とした決定木分析の結果